

健 保 だ よ い

2020
SPRING

春



もくじ

- 1・2 令和2年度予算決まる
- 3 健診の実施要領
- 4 すぐ始めよう! がん予防

令和2年度

収入・支出予算決まる

予算の
ポイント

令和2年度の収入・支出予算が組合会において承認・決定いたしましたので、その概要をお知らせします。

- 経常収入は、706,831千円で前年予算比3.7%のマイナス、経常支出は802,841千円で前年予算比27.9%のプラスとなり、経常収支は-96,010千円の赤字となります。
- 本年度は、被保険者数の減少を見込まれるため保険料収入が減少します。
支出においては納付金が大幅に増加します。これは、平成30年度の前期高齢者の医療費にかかわる数値をもとに決定する納付額が大幅に増加したためによるものです。その他の支出では、保険給付費が前年予算比12.6%マイナスの331,708千円、保健事業費は4.8%マイナスの72,383千円となっています。
- 保険料率は、一般保険料の調整保険料分として、0.32／1,000の改定を行います。

※一般保険の納付金は依然厳しい状況であり、給付額、納付額の増加を見込まざるを得ない状況であるため、一般保険料率は現状維持とさせていただきました。

一般勘定

● 予算編成の基礎数値

被保険者数	平均標準報酬月額	被保険者1人当たりの被扶養者数	保険料率（調整保険料率含む）
男………980人	男………351,000円	0.87人	事業主 …………… 60.841/1,000
女………304人	女………231,000円		被保険者 …………… 50.909/1,000
計………1,284人	全体………322,000円		計…………… 111.750/1,000

● 収入

（単位：千円）

科目	令和2年度 予算	平成31年度 決算見込	平成31年度 予算
健康保険収入	698,025	694,255	718,026
調整保険料収入	8,215	6,166	6,325
繰越金	120,000	0	0
別途積立金繰入	0	0	0
国庫補助金収入	833	561	895
財政調整事業交付金	1,640	1,279	1,282
雑収入	7,976	12,884	15,394
収入合計	836,689	715,145	741,922
経常収入合計	706,831	707,700	734,148

● 支出

（単位：千円）

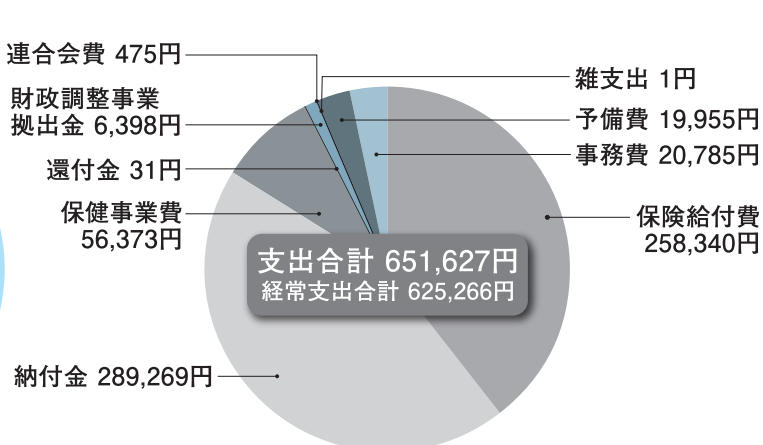
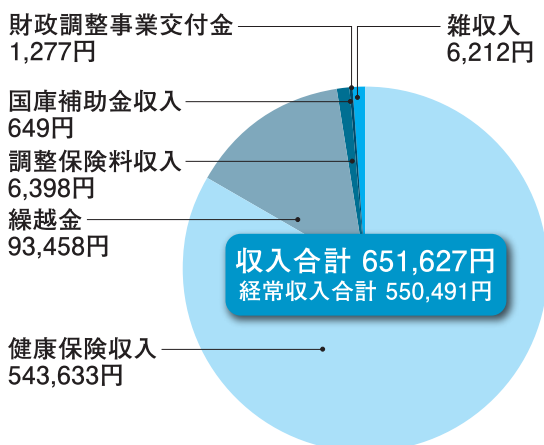
科目	令和2年度 予算	平成31年度 決算見込	平成31年度 予算
事務費	26,688	25,621	29,444
事務所費	26,656	25,600	29,412
組合会費	32	21	32
保険給付費	331,708	310,698	379,481
法定給付費	329,267	308,373	376,121
付加給付費	2,441	2,325	3,360
納付金	371,421	136,054	142,477
前期高齢者納付金	240,229	9	10
後期高齢者支援金	131,186	136,030	142,449
病床転換支援金	1	1	2
日雇拋出金	0	0	1
退職者給付拋出金	5	14	15
保健事業費	72,383	56,801	75,997
還付金	40	0	40
財政調整事業拋出金	8,215	6,324	6,325
連合会費	610	506	500
雑支出	2	0	2
その他	0	0	0
予備費	25,622	0	107,656
支出合計	836,689	536,004	741,922
経常支出合計	802,841	529,680	627,930

令和2年度 予算経常収支差額

▲96,010千円



1人当たりをグラフで見ると



介護勘定

●予算編成の基礎数値

介護保険第2号被保険者数	介護保険第2号被保険者たる被保険者数	特定被保険者数	平均標準報酬月額	保険料率
1,217人	903人	0人	357,000円	事業主…………… 9.256/1,000
				被保険者…………… 7.744/1,000
				計…………… 17.000/1,000

●収入

(単位：千円)

科目	令和2年度 予算	平成31年度 決算見込	平成31年度 予算
介護保険収入	85,260	99,094	98,920
繰越金	0	0	0
繰入金	0	0	0
国庫補助金受入	1	1,065	1
雑収入	1	0	1
収入合計	85,262	100,159	98,922

●支出

(単位：千円)

科目	令和2年度 予算	平成31年度 決算見込	平成31年度 予算
介護納付金	83,324	80,590	77,826
介護保険料還付金	0	0	1
積立金	0	0	0
雑支出	0	0	1
予備費	1,938	0	21,094
支出合計	85,262	80,590	98,922
残金(収入－支出)	0	19,569	0

健診につきましては、次の実施要領に則って実施します

実施要領

1.健診方法の選択

被保険者が受診する健診を巡回健診と医療機関での施設健診に区分し、いずれかを選択して受診していただきます。巡回健診は、次の

①から⑤の事業所所在地に勤務する被保険者を対象に実施します。

- ①旭川:合同酒精 旭川工場内 ②八戸:合同酒精 酵素医薬品工場内 ③松戸:合同酒精 東京工場内
④久留米:福德長酒類 久留米工場内 ⑤湯沢:秋田県醗酵工業

2.巡回健診の取りまとめ

巡回健診実施担当者は、巡回健診を選択した被保険者について取りまとめていただき、従来通りの手続きにて巡回健診実施医療機関へ申し込みを行ってください。また、担当者は巡回健診受診者リストを作成のうえ健保組合へご提出ください。なお、巡回健診を選択後受診できなかった被保険者については、医療機関での施設健診へ区分を変更します。

3.医療機関での施設健診の申し込み方法

ご自身が医療機関へ、もしくは外部委託先となる株LSIメディエンスの設置する次の②から③の窓口へ申し込みを直接行っていただきます。

- ①電話(直接予約が可能な医療機関の場合のみ) ②インターネット ③ハガキ

4.ご案内方法

健診についてのご案内は、社用メールアドレスへのメール、もしくは事業所において配付される案内書によって行います。

5.健診内容について

40歳以上の被保険者は法定の特定健診を前提とし、被保険者の年齢に応じて次の健診方法を選択していただきます。

	人間ドック	一般健診	婦人科健診
40歳以上	○	○	○
40歳未満	X	○	○

※40歳以上40歳未満の判定は年度末時点の年齢とし、本年度は2021年3月31日時点での年齢となります。

6.自己負担額の支払方法の変更

健保組合からの補助金額(30,000円+消費税3,000円)を超過し自己負担額が発生した場合、昨年度同様受診される施設窓口で直接お支払いいただくこととなります。なお、施設の申し込み時点で自己負担していただく金額が提示されますので、各自でご確認ください。ただし、次の健診項目は全額健保組合が負担します。

- ①C型肝炎ウイルス検査(40歳以上1回目に限る) ②胃部X線検査(胃カメラへ変更の場合、差額のうち13,000円超過部分は自己負担)
③腹部超音波検査(35歳以上) ④大腸がん検査(便潜血反応2回法、35歳以上)
⑤婦人科検査(子宮がん検査、乳がん検査) ⑥前立腺がん検査(45歳以上)

7.婦人科検査

巡回健診にて受診できない婦人科検査については、従来どおり、外部委託先である財日本健康文化振興会からのご案内および申し込み手続きとなります。

8.家族・主婦健診

被扶養者の方々を対象となる家族・主婦健診については、直接ご自宅宛に郵送によるご案内をさせていただき、従来どおり、外部委託先である財日本健康文化振興会への申し込み手続きとなります。婦人科健診の対象となられる方の健診項目、胸部X線検査は全額健保組合が負担します。

すぐ始めよう!

がん 予防

現在、日本人の2人に1人が、一生のうち一度はがんになるというデータがあります。

しかし、医学の進歩とともに、がんは克服できる病気となりつつあり、それと同時に、がんを予防する研究も進んできました。

国立がん研究センターでは「日本人のためのがん予防法」を発表。がん予防の啓蒙を行っていますが、これによると、5つの健康習慣でがんのリスクが半減されるといいます。どのように予防していけばいいのか、具体的に見ていきましょう。

■日本人におけるがんの要因

がんリスク要因	男性	女性
喫煙	29.7%	5.0%
受動喫煙	0.2%	1.2%
感染	22.8%	17.5%
飲酒	9.0%	2.5%
塩分摂取過多	1.9%	1.2%
過体重・肥満	0.8%	1.6%
果物摂取不足	0.7%	0.8%
野菜摂取不足	0.7%	0.4%
運動不足	0.3%	0.6%
ホルモン剤使用	—	0.4%

危険因子の多くは 生活習慣の中にある!

左の表から、がんには「喫煙」「飲酒」「食生活」「身体活動」「肥満」「感染」など6つの要素があることがわかります。おもにC型肝炎ウイルス(肝がん)やピロリ菌(胃がん)のことを指している「感染」以外は、生活習慣に関わるもの。まずは自分の生活習慣を省みて、がんの予防に努めるようにしましょう。

Inoue, M. et al.: Ann Oncol, 2012; 23(5): 1362-9 より作成

がんのリスクを減らす5つの健康習慣

① 禁煙をする



② 節酒をする



③ 食生活を見直す



④ 身体を動かす



⑤ 適正体重を維持する



国立がん研究センターが40歳から69歳の男女、総計14万420人に実施した調査によると、この5つの健康習慣を実施する人は、“0または1つ”実施する人に比べ、男性では43%、女性では37%がんになるリスクが低くなるという推計が示されています。

定期的ながん検診を受けましょう

しかしながら、理想的な生活習慣を徹底してもがんにならなれないというわけではありません。そこで、次の備えとして早期発見が重要な役割を担います。定期的ながん検診を受けることで、早期発見・早期治療が可能となり、最も少ない負担で罹患前と同様の社会生活へと復帰することも可能です。業務を休めない、行くのが面倒などの理由で検診を後回しすることなく、当健康組合の実施するがん検診を積極的に受け、がんのリスクを減らすよう取り組みましょう。



個人情報 の保護 に対する 取り組み

健康保険組合では、加入者の氏名・住所などのほか、資格・給付・診療など健康管理に関する個人情報を扱っています。2005年4月からは個人情報保護法が施行され、企業や健康保険組合にも個人情報の取扱に関する義務が課せられました。オエノンホールディングス健康保険組合では、個人情報の取扱に関する法令その他の規範を遵守し、個人情報保護ポリシーを制定して、内容の継続的の見直し・改善に努めています。

2020年3月発行

発行所 オエノンホールディングス健康保険組合

〒271-0064 千葉県松戸市上本郷字仲原 250 電話 047(729)1836

制作／(株)プライムステーション